◉はじめに

田山花袋は、「上毛カルタ」で「誇る文豪」と詠まれているように文学者、作家として有名であることは、皆さんご存知ですね。その花袋、実は友人・知人がとても多かった人物なのですが、それをご存知の方はあまりいらっしゃらないのではありませんか。

当館には、花袋の交友関係の広さを裏づける資料が数多く収蔵されています。一緒に活動した自然主義文学の仲間、異なった主義を作風とする他の文学者、本や雑誌の出版に関わる業界人、作品のモデルとなった人物とその関係者、花袋を慕って集まった弟子など…。これ以外にも、様々な分野の人たちと、多彩な交流を持っていました。多くの知人・友人とやり取りした手紙や葉書などの資料は、大変興味深いもので、当時の花袋の生活の様子や暮らしぶりまでをも、私たちに伝えてくれます。

当館では、花袋と友人などとの交流に関わる資料を、『田山花袋記念館研究叢書』(平成三年～八年)として五冊の本にまとめています。本書『花袋の友達一〇〇人』は、交友関係を示す実物資料などを通して、花袋がどんな人たちと関わったかを紹介していこうとするものです。

文学者としての花袋の新しい顔が見つけられるかもしれません。どんな「友達」が登場するか、どうぞご期待ください。

田山花袋記念館研究叢書

Sample

目次

はじめに
目次・凡例
【1人目】島崎藤村……4
【2人目】国木田独歩……5
【3人目】山崎直方……6
【4人目】近松秋江……7
【5人目】佐藤義亮……8
【6人目】太田玉茗……9
【7人目】小山内薫……10
【8人目】小林一意……11
【9人目】菊池　寛……12
【10人目】柳田國男……13
【11人目】池田永治……14
【12人目】正宗白鳥……15
【13人目】前田　晁……16
【14・15人目】花袋の女門下生たち……17
岡田美知代・水野仙子
【16人目】宮川春汀……18
【17人目】白石実三……19
【18人目】幸田露伴……20
【19人目】坪谷水哉……21
【20人目】徳田秋声……22
【21～39人目】宮崎湖処子と紅葉会の同人たち……23
宮崎湖処子・太田春山・竹中茂成
桜井俊行・土持綱安・田山実弥登ほか
【40人目】尾崎紅葉……24
【41人目】中村星湖……25
【42人目】藤澤清造……26
【43～70人目】「文章世界」の投稿者たち……27
生田葵山・内田百閒・岡田三郎・岡村千秋
片岡鉄兵・加藤武雄・加能作次郎・川浪道三
木村　毅・久保田万太郎・小島政二郎
小林多喜二・坂本石創・関口鎮雄・田中冬二
谷崎精二・塚越亨生・中西悟堂・中村武羅夫
秦　豊吉・三上於菟吉・水守亀之助
三宅周太郎・室生犀星・米川正夫・横光利一
吉屋信子・若林牧春
【71人目】川上眉山……28
【72人目】相馬御風……29
【73・74人目】与謝野晶子・与謝野鉄幹……30
【75人目】巌谷小波……31
【76～78人目】有島三兄弟……32
有島武郎・有島生馬・里見　弴
【79人目】小室翠雲……33
【80人目】小栗風葉……34
【81人目】蒲原有明……35
【82～87人目】装丁画家たち……36
黒田清輝・鏑木清方・川端龍子・竹久夢二
津田青楓・橋口五葉
【88人目】小杉未醒（放菴）……37
【89～99人】意外なあの人……38
谷崎潤一郎・二葉亭四迷・坪内逍遙
横山大観・北原白秋・泉　鏡花・高浜虚子
島村抱月・若山牧水・森　鷗外・夏目漱石
【100人目】？……39

凡例

一　本書は、平成二十一年四月七日から平成二十三年四月一日まで全三十六回にわたり、田山花袋記念文学館で月替わりで展示していた「花袋の友達一〇〇人」の解説パネル文を、一部加筆修正して掲載したものです。

二　解説パネル文は、当時の文化振興課文化財係職員が交代で執筆しました。このため、文体はそれぞれ異なっていますが、刊行に際し、次の点は統一しました。

（一）年号は和暦を優先し、必要に応じて西暦を記しました。

（二）雑誌名、新聞およびこれらに発表された作品名等は「　」で、単行本については『　』で表記しました。また、旧かなづかいは現代かなづかいに改めました。

（三）資料の引用文は、旧字体・異体字は新字体に、旧かなづかいは現代かなづかいに改めました。

三　本書にご協力いただいた方々のお名前は巻末に記しました。

Sample